

## 巻 頭 の こ と ば

令和3年度に執行いたしました本市行政事務について、その概要を報告いたします。

新型コロナウイルス感染症は、一時的には落ち着きを取り戻す局面もありましたが、度重なる感染拡大を受け、私たちの生活や社会活動は多くの制約を受けざるを得ない状況が続いています。地域の社会経済状況が大変厳しいものとなる中での、市政運営2期目のスタートとなりましたが、引き続き、ワクチン接種の推進をはじめとする感染症対策に万全を期すとともに、社会経済活動との両立を図るべく、市内事業者の事業継続に向けた支援、市民生活の支援などの経済対策に取り組んでまいりました。

長引くコロナ禍の中、無観客ではありましたが米子がいな祭を開催でき、また、東京オリンピック・パラリンピックでの米子市出身者5人の活躍、とりわけ鳥取県勢初の金メダリスト誕生という嬉しいニュースもあり、私たち米子市民に勇気と希望を与えていただきました。

将来像に「住んで楽しいまち よなご」を掲げた米子市まちづくりビジョンに基づく主な取組といたしましては、「交通基盤の充実と人が集うまちづくり」を推進していくため、だんだんバスの新ルート整備に向けた実証実験の実施や、米子駅南北自由通路等整備事業の進捗を図るとともに、中心市街地や皆生温泉等のにぎわい創出に取り組んでまいりました。

さらに、人口減少社会や少子高齢化の進展に伴う様々な課題への対応として、子供に関する施策の総合的かつ効果的な推進に向け「こども総本部」を設置したほか、ICT技術による住民サービスの向上と行政の効率化を図るため「スマート窓口」を設置するなど、新たな体制を整えました。

また、計画的に整備を進めております国指定史跡米子城跡につきましては、元日の放送番組で絶景の城として「最強の城」に選ばれ、全国的にも注目を集め、多くの方に来訪いただいております。

今後も、新商都米子の創造に向けて、豊かな自然や文化、暮らしやすさといった米子の恵まれた環境を存分にいかしたまちづくりを積極的に展開してまいります。また、鳥取県西部圏域はもとより、中海・宍道湖・大山圏域の中心的な役割を担う都市として、さらなる連携により一体感のある発展を図っていききたいと考えております。

市議会議員各位、並びに市民の皆さまのご意見とご協力をいただきながら、引き続き、市政運営にまい進する所存でございますので、どうか一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年8月

米子市長 伊 木 隆 司